

集中と衰退

細る周辺人口減に拍車

鹿児島県内初の「平成の大合併」で、薩摩川内市が誕生して12日で10年になる。鹿児島市も11月に10年を迎える。大合併を経て、96市町村は43市町村に減少した。行財政改革などを目的に、国が旗を振る形で行われた市町村合併は、地域にどんな効果や弊害をもたらしたのか。県内各地の状況を報告する。

薩摩川内市街地からさつま町に延びる国道267号の交差点。田んぼの間を通る通学路から、児童の弾む声が聞こえてくる。「おはようございまーす」。すれ違う住民と朝のあいさつを交わす。

JR川内駅から車で15分。薩摩川内市中郷地区はかつて水田が広がる農村地帯だったが、土地区画整理事業が終わり、2004年に薩摩川内市となったところから転入者が目立ち始めた。商業施設が建ち、人口は10年で400人余り増えた。市街地や郊外へのアクセスの良さが人気のようだ。

「過疎が進み育英小学校は一時、統廃合の話も出たけど、子供が増えて学校も残った。地域ににぎやかさが戻ったよ」。代々農業を営む山田島安治さん(80)は目を細める。

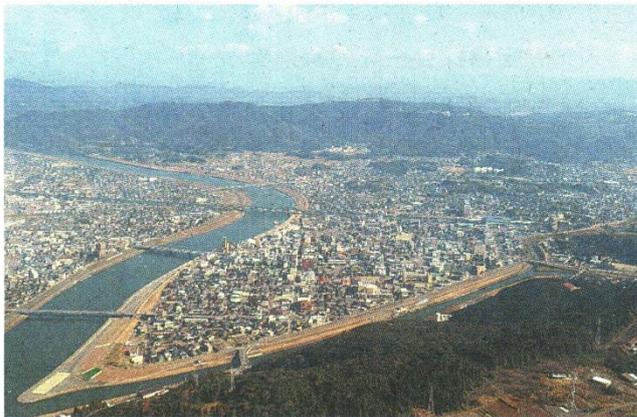
旧川内市と樋脇、入来、東郷、祁答院の旧4町、里、上甕、下甕、鹿児島の甕島旧4村は、全国に例を見ない「海越え合併」で薩摩川内市に生まれ変わった。

中郷地区のように人口が増えた所があれば、減少した地域もある。14年4月の人口を05年と比べると、市全体は約9万8千人で合併前より5.6%減少。旧市町村別にみると、旧川内市が1.2%減と緩やかなのに対し、旧4町は14.2%、甕島旧4村は21.1%と下げ幅が大きい。



特に、下甕島南部の下甕町(旧下甕村)は激しい人口減が止まらない。05年に2,627人いた住民は、14年4月には2,012人になった。観光客でにぎわう週末を除けば、港周辺もひっそりと静まり返っている。

市は「高齢化が進む地域。自然減に加え、本土にいる子を頼って島を離れるケースもあるのでは」とみる。



12日で市町村合併から10年たつ薩摩川内市の市街地
—2013年12月(北村茂之撮影)

だが、地元には別の見方もある。下甕島地域コミュニティ協議会の宮野蔵郎代表は「支所の職員が減ったこともある」と言う。06年に99人いた正職員は29人に減った。大半は本庁に転勤。旧市域に家を建て家族を呼び寄せた人もいる。

合併の枠組みをめぐる、広域か甕島4村かで激しい選挙戦が繰り広げられた旧下甕村。60代の農業男性は「合併で人が吸い取られるのは分かっていた。大きな市との枠組みが良かったとはまだ思えない」と話す。

旧祁答院町では住民投票を2度実施した。いずれもわずかな差で、9市町村という現在の枠組みに賛成する意見が上回った。

当時、宮之城、鶴田、薩摩の旧3町との合併を求め運動の先頭に立った元町議木場幹事さん(52)は「今は、大きな枠組みの中で自分の務めを果たしたい。わだかまりはない」。現在は消防団分団長と地区コミュニティ協議会の役員を務める。

祁答院は10年で人口が約800人減った。「田舎だから人口が減るのは仕方ないが、地域を担う人材が少なくなるのはつらい。地域への負担を軽くしてほしい」と望んでい

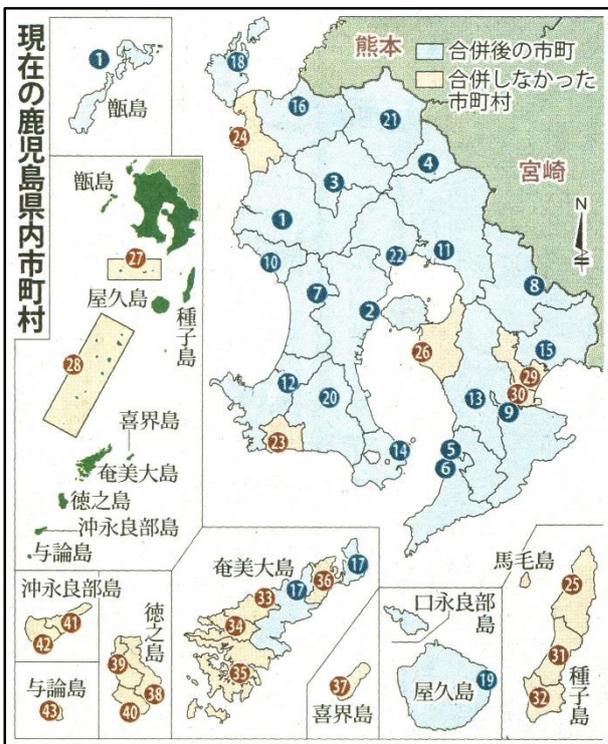
る。(梅下陽一)

鹿港市町村合併 10年

地域の格差顕著に 「寂れる」不安消えず

市町村合併によって、人口が集中する地域と減少する地域の差が大きくなったのは薩摩川内市だけではない。鹿児島市に吉田、桜島、喜入、松元、郡山の周辺5町が編入して誕生した60万都市・鹿児島市でも格差が顕著になりつつある。

4車線の県道沿いに立ち並ぶ真新しい一戸建て住宅やスーパー。1万5千人が暮らす鹿児島市松元地域は合併10年で田園風景が一変し、人口は2割増えた。若い世代の移住が進み、新興の大型団地には子供の声が響く。



合併で鹿児島市の面積は2倍になったが、人口は1割増にとどまった。旧市域への一極集中が懸念される中、旧5町で唯一、住民が増えた松元は「勝ち組」のように見える。

だが、JR上伊集院駅近くの松元校区折尾町内会の定栄一郎会長(77)は表情を曇らせる。「隣の薩摩松元駅前の商店街が寂れた。歩いて行ける店がなくなり、高齢者には不便な街になった」。隣の石谷校区で自治公民館長(町内会長)を務める花倉耕作さん(78)も「旧町時代は盛んだったスポーツ交流がなくなった。新しい住民との交流が減り、地域の一体感が薄れた」と寂しそうだ。

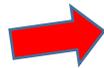
もともと鹿児島市のベッドタウンとして機能してきた。合併後は住民サービスの均一化が進み、その勢いに拍車が掛かった。

4年前に一家3人で旧市のアパートから春山地区の戸建てに引っ越した会社員男性(42)は、交通アクセスの良さを強調する。「旧市の大型店でよく買い物をする。松元だからではなく、単に郊外団地に住んでいる気持ち。旧松元町を盛り上げようという意識はない」

一方、旧桜島町では役場職員を含めた人口流出が続き、合併時の2割減の3,667人(2014年3月現在)に落ち込んだ。ある支所職員は「子育て支援、フェリー運賃助成など(旧町時代の)独自の定住策がなくなったからだ」と、60万都市にのみ込まれつつある現状を説明する。

子供の減少はより顕著だ。桜峰小学校では、10年前に100人ほどいた児童は3分の1となった。無職男性(70)は「同じ住民サービスなら、便利な市街地に住むのは理解できる。子育て世代がこぞって移住した」。合併効果で上向きの観光も、地元で雇用増生むほどではないという。

「地域が寂れる」。合併時の旧町の不安が的中するかのようになり、市街地への一極集中は進んでいる。(藤崎慎二、江口淳司、常深さゆり)



合併後の市町			
市町名	旧市町村	合併日	人口
① 薩摩川内市	川内市、樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、里村、上甑村、下甑村、鹿島村	(年・月・日) 2004・10・12	(人) 96,705
② 鹿児島市	鹿児島市、吉田町、桜島町、喜入町、松元町、郡山町	04・11・1	606,595
③ さつま町	宮之城町、鶴田町、薩摩町	05・3・22	22,711
④ 湧水町	栗野町、吉松町	05・3・22	10,741
⑤ 錦江町	大根占町、田代町	05・3・22	8,173
⑥ 南大隅町	根占町、佐多町	05・3・31	7,750
⑦ 日置市	東市来町、伊集院町、日吉町、吹上町	05・5・1	49,653
⑧ 曾於市	大隅町、財部町、末吉町	05・7・1	37,229
⑨ 肝付町	内之浦町、高山町	05・7・1	15,902
⑩ いちき串木野市	串木野市、市来町	05・10・11	29,813
⑪ 霧島市	国分市、溝辺町、横川町、牧園町、霧島町、隼人町、福山町	05・11・7	126,832
⑫ 南さつま市	加世田市、笠沙町、大浦町、坊津町、金峰町	05・11・7	36,044
⑬ 鹿屋市	鹿屋市、輝北町、串良町、吾平町	06・1・1	103,947
⑭ 指宿市	指宿市、山川町、開聞町	06・1・1	42,748
⑮ 志布志市	松山町、志布志町、有明町	06・1・1	31,878
⑯ 出水市	出水市、野田町、高尾野町	06・3・13	54,490
⑰ 奄美市	名瀬市、住用村、笠利町	06・3・20	44,108
⑱ 長島町	東町、長島町	06・3・20	10,488
⑲ 屋久島町	上屋久町、屋久町	07・10・1	13,099
⑳ 南九州市	穎娃町、知覧町、川辺町	07・12・1	36,670
㉑ 伊佐市	大口市、菱刈町	08・11・1	27,473
㉒ 始良市	加治木町、始良町、蒲生町	10・3・23	75,297

合併しなかった市町村					
市町村名	人口(人)	市町村名	人口(人)	市町村名	人口(人)
㉓ 枕崎市	22,342	㉔ 東串良町	6,618	㉕ 喜界町	7,429
㉖ 阿久根市	21,642	㉗ 中種子町	8,296	㉘ 徳之島町	11,514
㉙ 西之表市	16,212	㉚ 南種子町	5,780	㉛ 天城町	6,231
㉜ 垂水市	15,945	㉝ 大和村	1,633	㉞ 伊仙町	6,573
㉟ 三島村	416	㊱ 宇検村	1,791	㊲ 和泊町	6,815
㊳ 十島村	719	㊴ 瀬戸内町	9,152	㊵ 知名町	6,411
㊶ 大崎町	13,352	㊷ 龍郷町	5,882	㊸ 与論町	5,242

※ 人口は9月1日現在の鹿児島県の推計人口

合併 22 市町議員 6 割減

鹿児島内，10 年で 940 人減少

「平成の大合併」で誕生した鹿児島県内 22 市町の 9 月 1 日現在の議員定数が、2004 年 9 月 1 日の合併前構成市町村の合計と比べ、平均 64.5% 減っていることが 8 日、南日本新聞の調べで分かった。22 市町では 10 年間で議員 832 人が削減された。合併しなかった 21 市町村は計 108 人減り 29.9% 減、全 43 市町村では 940 人減り 56.9% の減少だった。

減少率が最も高いのは薩摩川内市で、130 人から 26 人になり、80.0% 減少。次いで霧島市の 78.3 減（120 人から 26 人に減少）、南さつま市の 73.0% 減（74 人から 20 人に減少）だった。非合併市町村は、20 人から 10 人になった瀬戸内町の 50.0% 減が最高で、14 人から 8 人になった大和村と宇検村の 42.9% 減が続いた。

議員減に伴い、議員 1 人当たりの人口は大きく増えた。薩摩川内市が 795.7 人から

3, 719.4人に増え、4.7倍。霧島市は1, 059.8人から4.6倍の4, 878.2人になった。

県立短期大学の山本敬生准教授（行政法，地方自治法）は，経費削減や議員一人一人の活躍の場が増えるなど良い面もあるとしながらも，「あまりにも急激に減っており，住民自治，民主主義の観点からは好ましいことではない」と話す。住民と議会との距離が遠くなり，政治的無関心が進む恐れがあるという。

また，大幅な減少にもかかわらず，住民から不満の声が上がらないことを指摘し，「市町村議員への期待感の薄さの表れではないか」と話した。（川畑美佳）

【鹿児島県内の議員定数の推移】

市町村名	議員定数		減少率 (%)
	2004年 9月	2014年 9月	
鹿児島市	132	50	62.1
鹿屋市	76	28	63.2
出水市	56	24	57.1
指宿市	52	20	61.5
薩摩川内市	130	26	80.0
日置市	76	22	71.1
曾於市	58	20	65.5
霧島市	120	26	78.3
いちき串木野市	38	18	52.6
南さつま市	74	20	73.0
志布志市	52	20	61.5
奄美市	48	24	50.0
南九州市	54	22	59.3
伊佐市	38	18	52.6
始良市	60	24	60.0
さつま町	48	16	66.7
長島町	30	14	53.3
湧水町	30	12	60.0
錦江町	26	12	53.8
南大隅町	28	12	57.1
肝付町	32	14	56.3
屋久島町	32	16	50.0
合併市町計	1,290	458	64.5
枕崎市	22	16	27.3
阿久根市	22	16	27.3
西之表市	21	16	23.8
垂水市	20	16	20.0
三島村	8	7	12.5
十島村	8	8	0.0
大崎町	20	12	40.0
東串良町	16	10	37.5
中種子町	18	14	22.2
南種子町	16	10	37.5
大和村	14	8	42.9
宇検村	14	8	42.9
瀬戸内町	20	10	50.0
龍郷町	16	10	37.5
喜界町	20	14	30.0
徳之島町	20	16	20.0
天城町	18	14	22.2
伊仙町	20	14	30.0
和泊町	14	12	14.3
知名町	18	12	33.3
与論町	16	10	37.5
非合併市町村計	361	253	29.9
全市町村計	1,651	711	56.9

※合併市町の「2004年9月」は、合併前の構成市町村の合計



平成26年10月9日（木）／南日本新聞